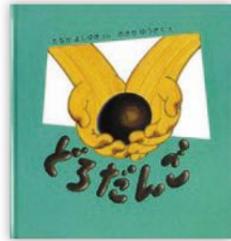


えほんとながよし

子どもと楽しむためのブックガイド

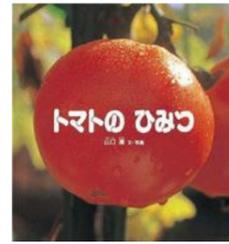


どろだんご
たなか よしゆき／ぶん のさか ゆうさく／え
福音館書店 (1989年)



どろだんご作りを楽しむ子どもの様子が、リズムカルなことばと、イラストで生き生きと描かれています。硬くてピカピカのどろだんごが出来上がる過程や、子どもたちの夢中な様子が伝わります。絵本を見ながら、どろだんごを作ってみましょう。

トマトのひみつ
山口 進／文・写真 福音館書店 (1994年)



太陽の光をたっぷり浴びた真っ赤でツヤツヤ、おいしいトマト。でも、おいしいだけではありません。実は、トマトには、虫から身を守るヒミツがあります。長年「ジャポニカ学習帳」の表紙写真で親しまれてきた、昆虫植物写真家の山口進が贈る写真絵本です。

図書館より

このリストは家庭や図書館、学校などで読み聞かせをする際の、絵本選びの参考にさせていただくことを目的に作成したものです。

おおよ3歳から6歳のお子さんと楽しむことを想定しています。お子さんがひとりでも楽しむことができる絵本もありますが、ぜひ、声に出して一緒に楽しんでいただくことをおすすめします。

このリストに掲載されている絵本は、どれも出版から25年以上経ていながら、今でも世代を超えて楽しむことのできる、よりすぐりの絵本ばかりです。すばらしい絵本はここに挙げられたものだけではありません。掲載されている作家の他の作品や、みなさんの目にとまった他の作家の作品も、ぜひ、手に取ってみてください。

このリストが、皆さまが絵本の世界の豊かさをさらに深く知るきっかけとなることを願っています。

八戸市立図書館

※1 掲載されている図書はすべて2025年12月現在、書店での入手が可能

※2 青森県教育委員会発行『絵本でゆたかな親子の時間(第7版)』に掲載されている絵本とは重複していません。

おはなし会のお知らせ

各図書館では、絵本の読み聞かせや紙芝居などのおはなし会を定期的に行っております。詳しい日時等は、図書館ホームページをご覧ください。

発行者 八戸市立図書館

選書メンバー 戸田山 みどり
八戸工業高等専門学校 名誉教授
日本児童文学学会員

高橋 智子
八戸文化幼稚園 絵本図書館えほんのおうち管理者
絵本専門士

森 花子
八戸ブックセンター

八戸市立図書館員

発行年月 令和8年2月



お問合せ

八戸市立図書館

〒031-0022 八戸市大字糠塚字下道2番地1
[TEL] 0178-22-0266

八戸市立南郷図書館

〒031-0111 八戸市南郷大字市野沢字中市野沢39-1
[TEL] 0178-60-8100

八戸市 図書情報センター

〒039-1101 八戸市大字尻内町字館田1-1
八戸駅ビル(うみねこプラザ1)1階
[TEL] 0178-70-2600



図書館
ホームページ



図書館
公式X



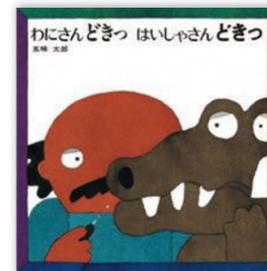
図書館
公式Instagram



ぶたのたね
佐々木 マキ／作 絵本館 (1989年)

足が遅くて、いつもぶたにばかにされているおおかみ。そんなおかみの夢は、お腹いっぱいぶたを食べること。ある日、きつね博士から「ぶたのたね」をもらったおかみは、早速植えてみることに。すると……。シュールでポップな絵本の名手、佐々木マキの代表作です。

『ぶたのたね』シリーズ全4冊



わにさんどきっ はいしゃさんどきっ
五味 太郎／作 偕成社 (1984年)

虫歯がいたくて歯医者に来たわにさん。患者がわにでおどろく歯医者さん。思わず出たことばは……。はてさて治療はいかに。『きんぎょがにげた』で有名な五味太郎が描く、同じことばなのに、それぞれの立場でことばの意味が変わるところがおもしろい絵本です。



こぶたたんぽぽけっととんぼ
馬場のぼる／作 こぐま社 (1990年)

『11ぴきのねこ』でおなじみの三戸町出身・馬場のぼるのしりとり絵本です。ユーモラスな作風の人気漫画家としての顔も持つ馬場のぼる。テンポ良く次から次へとつながることばと、ほのぼのとあたたかいイラストも魅力です。馬場のぼるのしりとり絵本では、『ぶたたぬききつねねこ』もあります。

*QRコードを読み取ると、図書館ホームページの本の情報にアクセスできます。

※()内は初版出版年

そらいろのたね

中川 李枝子/さく 大村 百合子/え 福音館書店(1964年)



ゆうじがキツネと交換した「そらいろのたね」。そのたねを植えるとなんと小さな家が生まれてきました。家はどんどん大きくなり、子どもも動物もたくさん集まってきます。その中には、あのおなじみの2匹も……。『ぐりとぐら』の作者コンビによる、2作目の絵本です。

まゆとおに

富安 陽子/文 降矢 なな/絵 福音館書店(1999年)



やまばのむすめまゆは、雑木林で鬼とでくわします。鬼は、実はまゆを食べたくてしかたないのですが……。見た目のかわいらしさからは想像がつかないほどの怪力なまゆと、おそろしげに見えて実は情けない鬼とのやり取りが見どころです。

『やまばのむすめまゆのおはなし』シリーズ全7冊

だごだご ころころ

石黒 漢子・梶山 俊夫/再話 梶山 俊夫/絵 福音館書店(1993年)



鬼につかまったばあさんは、鬼のために毎日だご(団子)を作らされていました。じいさんの所に帰りたいと思えばあさんを、誰が、どうやって助けたのでしょうか？ 梶山俊夫のダイナミックな鬼の絵と、方言による語り味わい深い日本の昔話です。

おどりトラ

金森 襄作/再話 鄭 珮香/絵 福音館書店(1987年)



おどりが大好きなトラがいました。おどりの腕をみがき不思議な力を持つようになったトラですが、おどり好きが災いして大失敗。でも、おどりはやめられない。迫力ある絵と、トラのユーモラスな表情が楽しい韓国の昔話です。

あめふり

さとう わきこ/作・絵 福音館書店(1984年)



主人公のばばあちゃんは、少し気が短いけれど、パワフルで人情味あふれるおばあちゃんです。毎日降り続く雨に飽き飽きしたばばあちゃんは、驚きの方法で、雨をやませることに成功しました。その奇想天外な方法とは？

『ばばあちゃんのおはなし』シリーズ全19冊

しんせつなともだち

方 軼羣/作 君島 久子/訳 村山 知義/画 福音館書店(1965年)



雪の降る日、お腹をすかせたうさぎはカブをふたつも見つけました。ひとつは食べて、もうひとつは留守のろばの家へ置いてきます。うさぎが友だちに届けたカブのゆくえは？ 絵を担当した村山知義は、舞台演出家・美術家としても活躍しました。筆遣い、色使いが印象的です。

14ひきのおつきみ

いわむら かずお/さく 童心社(1988年)



森に住む14ひきのねずみの家族が高い木に登っています。お月見台を作るのです。あたりはだんだん暗くなり……。ねずみの目の高さに視点を置いたため「地面にはいつくばって、野の草花をながめるようになった」という作者が描く日本の山の秋です。

『14ひき』シリーズ全12冊

ことばあそびうた

谷川 俊太郎/詩 瀬川 康男/絵 福音館書店(1973年)

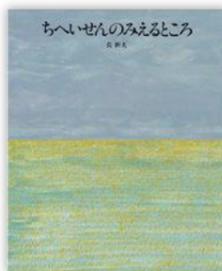


音の響きとリズムが心地良く、唱歌ことばのように何度でも口ずさみたくなる谷川俊太郎の詩が15編収録されています。瀬川康男の独特のタッチの挿絵が目を引きまします。ぜひ声に出して読んで、日本語のおもしろさを味わってみてください。

『ことばあそびうた』シリーズ全2冊

ちへいせんのみえるところ

長 新太/作 絵本塾出版(1978年)



表紙から裏表紙まで全ページに同じ構図で地平線が描かれています。ことばは「でした。」だけ。さて、何が出てくるのかはページを開いてみてのお楽しみ。多くの絵本作家に影響を与えた、ナンセンス絵本の原点とも言える作品です。2度の絶版を経て2025年に復刊されました。

ユックリとジョジョニ

荒井 良二/作 ほるぶ出版(1991年)



音楽が好きなユックリと踊りが好きなジョジョニが会った1日のできごとを、色彩の変化で表現した明るく色鮮やかな絵本。現在は、絵本作家として多数の作品を生み出している荒井良二が、34歳の時に手がけた初めての絵本、いわば出発点です。

どろぼうがっこう

かこ さとし/作・絵 偕成社(1973年)

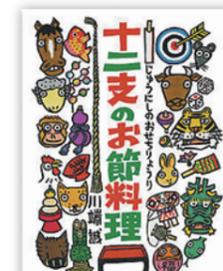


学校は学校でも、生徒は大人ばかりのどろぼう養成学校。宿題はもちろん、どろぼうをしてくるのですが、生徒たちは失敗ばかり。主人公のくまさか校長先生の出で立ちや場面の展開は、まるで歌舞伎の舞台を見ているようです。

『どろぼうがっこう』シリーズ全3冊

十二支のお節料理

川端 誠/作 BL出版(1999年)



大晦日、十二支の動物たちが力を合わせてお節料理を作ります。ねずみは正月飾り、さるは料理、イノシシは後片付け。豪華なお節ができました。みんなそろって新年を祝います。あなたの干支は何の係？ カラフルな版画で描かれた楽しいお正月の絵本です。シリーズに『十二支のお節煮』があります。

雨、あめ

ピーター・スピアー/作 評論社(1984年)



姉弟の雨の日の冒険を、絵だけで表現した絵本です。自然描写の美しさと、雨の日にならぬ遊ばしさが詰まっています。読み手と聞き手が自由にお話を作り合えることも魅力です。この絵本を読むと、雨の日が楽しみになるかもしれません。

ベーコンわすれちゃだめよ!

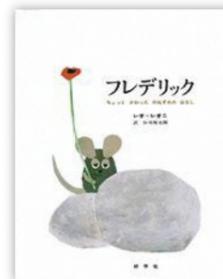
パット=ハッチンス/作・絵 渡辺 茂男/訳 偕成社(1977年)



ある日、男の子はお母さんからおつかいをたのまれます。たまごにケーキに梨、それからベーコン。忘れないように買うものを唱えながら歩き始めますが……。果たして男の子はたのまれたものを無事に買って帰れるのでしょうか。ひとひねり効いたストーリーで有名な作家の代表作です。

フレデリック

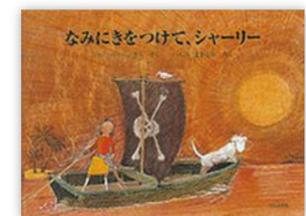
レオ=レオニ/作 谷川 俊太郎/訳 好社(1969年)



ちょっと変わった野ねずみのフレデリック。みんなが、冬の準備で忙しい中、フレデリックだけがひとりじっとしています。どうしてでしょう？ さまざまな紙を使うコラーージュ(切り貼り)の手法で作られたレオ・レオニの作品です。代表作『スイミー』は小学校の国語の教科書に掲載。

なみにきをつけて、シャーリー

ジョン・バーニンガム/作 辺見 まさな/訳 ほるぶ出版(1978年)



この絵本は、左ページに子どもにとっての現実が、右ページに子どもにとっての本当の世界が展開されるという画期的な表現方法で描かれています。作者のジョン・バーニンガムは、イギリス出身の絵本作家で海外の児童文学賞を多数受賞しています。